

VMware vRealize Orchestrator 8.5 リリース ノート

vRealize Orchestrator Appliance 8.5 | 2021 年 8 月 19 日 | ビルド 18474196

vRealize Orchestrator Update Repository 8.5 | 2021 年 8 月 19 日 | ビルド 18474196

リリース ノートを頻繁に確認して、最新の追加情報や更新情報を入手してください。

リリース ノートの概要

本リリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [vRealize Orchestrator 8.5.0 Patch 1](#)
- [vRealize Orchestrator 8.5 の新機能](#)
- [VMware vRealize Orchestrator 8.5 アプライアンスの展開](#)
- [vRealize Orchestrator 8.5 へのアップグレードおよび移行](#)
- [vRealize Orchestrator 8.5 とともにインストールされるプラグイン](#)
- [vRealize Orchestrator の以前のリリース](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

重要

KB 87120 の手順を実行した後にアップグレードが失敗する

KB 87120 に記載されている CVE-2021-44228 および CVE-2021-45046 log4j の脆弱性に対処するために使用される手順を実行すると、vRealize Automation および vRealize Orchestrator 8.6.2 以前でアップグレードが失敗する場合があります。回避策については、[KB 87794](#) を参照してください。

vRealize Orchestrator 8.5.0 Patch 1

[VMware Customer Connect ポータル](#)の [\[製品パッチ\]](#) ページから vRealize Orchestrator 8.5.0 Patch 1 をダウンロードできるようになりました。このパッチには、累積アップデートと log4j の修正が含まれています。

vRealize Orchestrator 8.5 の新機能

- **VMware vRealize Orchestrator plug-in for vRealize Automation 8.5 および vRealize Automation Cloud**

更新された vRealize Automation プラグインは、クラウド アカウント、クラウド ゾーン、プロジェクト、タグなどのスクリプト オブジェクトの生成、および独自のコンテンツの構築に使用できるこれらのオブジェクトに対する CRUD 操作をサポートします。各オブジェクトでは、特別な設定が不要な状態で一部のサンプル コンテンツが提供されます。[詳細](#)。

vRealize Orchestrator/vRealize Automation 8.5.0 の技術的な制限：

- REST 操作のタイムアウト期間は 2 分です。
- vRealize Automation から取得されたマスクされたカスタム プロパティ値は、カスタム プロパティが暗号化された値を保持する**プロジェクトの更新**ワークフローでの入力として機能しません。これは、vRealize Orchestrator に実装されている暗号化ロジックが異なるために発生します。回避策として、プライベート キーなしで暗号化された値を再入力します。
- vSphere クラウド アカウント、NSX-T、NSX-V、データ コレクタ、リージョンに対するページネーションはサポートされません。

- **vCenter Server Plug-in for vRealize Orchestrator での vSphere 7.x API のサポート**

vCenter Server Plug-in for vRealize Orchestrator は、vSphere 7.x API の最新バージョンをサポートするようになりました。プラグインで使用できるスクリプト オブジェクトの詳細については、vRealize Orchestrator クライアントの **API Explorer** に移動してください。

VMware vRealize Orchestrator 8.5 アプライアンスの展開

vRealize Orchestrator Appliance は OVA ファイルとして配布される VMware Photon OS ベースのアプライアンスです。内部 PostgreSQL データベースを使用して事前にビルド、構成されており、vCenter Server 6.0 以降で展開できます。

vRealize Orchestrator Appliance を使用すると、VMware クラウド スタック（vRealize Automation、vCenter Server を含む）と、お使いの IT プロセスおよび環境を、すばやく、簡単に、低コストで統合できます。

vRealize Orchestrator Appliance を展開する手順については、「[vRealize Orchestrator Appliance のダウンロードと展開](#)」を参照してください。

vRealize Orchestrator Appliance サーバの設定の詳細については、「[スタンドアローン vRealize Orchestrator サーバの構成](#)」を参照してください。

vRealize Orchestrator 8.5 へのアップグレードおよび移行

マウントされた ISO イメージを使用して、スタンドアローンまたはクラスタ化された vRealize Orchestrator 8.x 展開を最新の製品バージョンにアップグレードできます。

vRealize Orchestrator Appliance のアップグレードの詳細については、「[vRealize Orchestrator のアップグレード](#)」を参照してください。

vSphere または vRealize Automation で認証されたスタンドアローン vRealize Orchestrator インスタンスを vRealize Orchestrator 8.5 に移行できます。移行でサポートされる vRealize Orchestrator 7.x の製品バージョンは、バージョン 7.3 から 7.6 です。クラスタ化された vRealize Orchestrator 7.x の展開の移行はサポートされません。

vRealize Orchestrator Appliance の移行の詳細については、「[vRealize Orchestrator の移行](#)」を参照してください。

vRealize Orchestrator 8.5 とともにインストールされるプラグイン

vRealize Orchestrator 8.5 をインストールすると、デフォルトで次のプラグインもインストールされます

- vRealize Orchestrator vCenter Server Plug-In 7.0.0
- vRealize Orchestrator Mail Plug-In 8.0.0

- vRealize Orchestrator SQL Plug-In 1.1.6
- vRealize Orchestrator SSH Plug-In 7.3.0
- vRealize Orchestrator SOAP Plug-In 2.0.4
- vRealize Orchestrator HTTP-REST Plug-In 2.4.0
- Microsoft Active Directory 3.0.11 用の vRealize Orchestrator Plug-In
- vRealize Orchestrator AMQP Plug-In 1.0.6
- vRealize Orchestrator SNMP Plug-In 1.0.3
- vRealize Orchestrator PowerShell Plug-In 1.0.19
- vRealize Orchestrator Multi-Node Plug-In 8.5.0
- vRealize Orchestrator Dynamic Types 1.3.6
- vRealize Orchestrator vCloud Suite API (vAPI) Plug-In 7.5.2

vRealize Orchestrator の以前のリリース

vRealize Orchestrator の以前のリリースの機能と問題については、各リリースのリリース ノートに記載されています。vRealize Orchestrator の以前のリリースのリリース ノートを確認するには、次のいずれかのリンクをクリックしてください。

- [vRealize Orchestrator 8.4.2](#)
- [vRealize Orchestrator 8.4.1](#)
- [vRealize Orchestrator 8.4](#)
- [vRealize Orchestrator 8.3](#)
- [vRealize Orchestrator 8.2.1](#)
- [vRealize Orchestrator 8.2](#)
- [vRealize Orchestrator 8.1](#)
- [vRealize Orchestrator 8.0.1](#)
- [vRealize Orchestrator 8.0](#)
- [vRealize Orchestrator 7.6.0](#)
- [vRealize Orchestrator 7.5.0](#)
- [vRealize Orchestrator 7.4.0](#)

解決した問題

- **vRealize Orchestrator コントロール センターまたは vRealize Orchestrator Appliance にログインできない**
環境の root パスワードにバックスラッシュ（「\」）文字を使用すると、SSH セッションを介して vRealize Orchestrator コントロール センターまたは vRealize Orchestrator Appliance にログインしようとする問題が発生する可能性があります。
- **重複するワークフローのアクションの依存関係が見つからない**
ワークフローを複製し、それから依存関係を検索すると、ワークフロー入力フォームで使用されているアクションが見つかりません。
- **PowerCLI スクリプトが「同じキーの項目がすでに追加されています。キー: LinkedView」エラーで失敗する**
この PowerCLI のスクリプトの問題は、JSON 形式に解析できない VMHost PowerCLI オブジェクトによって発生します。
- **ワークフローまたはアクションの削除に 1 分以上かかる場合がある**

vRealize Orchestrator クライアントのオブジェクト ライブラリに数千のワークフローまたはアクションが含まれている場合、ワークフローまたはアクションの削除に 1 分以上かかることがあります。

- **vRealize Orchestrator 7.x から vRealize Orchestrator 8.x に移行した後にログ バンドルを作成すると、移行ログがバンドルに含まれない**

移行後に作成されたログ バンドルには、移行ログ ファイルが含まれません。この問題は、クラスタ化された vRealize Orchestrator 環境で発生します。

- **要素が、失敗するネストされた要素を持つワークフローである場合、ワークフローの実行は例外処理によりワークフロー要素で失敗する**

この問題は、ワークフローのスキーマにデフォルトのエラー処理アイテムと、ネストされたワークフローを含む組み込みのワークフロー アイテムが含まれている場合にトリガされる可能性があります。親ワークフローを実行し、ネストされたワークフローが失敗すると、デフォルトのエラー処理アイテムに関係なく、親ワークフローも失敗します。

- **大量のワークフローまたはアクションを含むフォルダの削除に時間がかかる**

大量のワークフローまたはアクション（2,000 を超えるオブジェクト）を含むフォルダを削除すると、削除プロセスが完了するのに数時間かかる場合があります。

- **完了したワークフロー実行のワークフロー実行ステップをナビゲートしているときにメトリックが失われる**

この問題は、ワークフロー プロファイラおよびトークン再生の拡張機能が有効になっている場合に見られます。ワークフロー実行でネストされたワークフローが呼び出された場合、親ワークフローのメトリックは表示されません。

- **プラグイン インベントリで取得されるアイテムの数に制限がある場合に、入力フォームでツリー ピッカーを使用してアイテムを表示すると、ツリー ピッカーに一部のアイテムが表示されない**

数の制限により、ツリー ピッカーはインベントリ ツリー内のすべてのアイテムを表示できません。この問題は、vRealize Orchestrator インベントリ内の Active Directory プラグインおよびその他のプラグインで発生する可能性があります。

- **vRealize Orchestrator 8.4.2 環境の移行が job.batch/vro-migration で作成された手順で応答を停止する。これは、環境変数 HOSTNAME がノード セレクタ ラベルのいずれとも一致しない場合に発生する**

この問題は、vRealize Orchestrator Appliance の HOSTNAME 環境変数が `kubernetes.io/hostname` ノード セレクタ ラベルと一致しない場合に発生します。これが生じるのは、移行の `nodeSelector` がこの変数を使用して `vro-migrate` コマンドが呼び出されたノードに移行ポッドが展開されるようにするためです。

- **変数エディタで Regexp タイプの変数を適切に保存できない。エディタに正しくない値が表示される**

この問題は、Regexp タイプの変数が文字列ではなく特殊なオブジェクトとして誤って解釈されるために発生します。

- **古いワークフローでは、新しい vRealize Orchestrator バージョンでは使用できない廃止された Path タイプを使用できます。**

廃止された `Path` タイプを使用すると、特定のシナリオで問題が発生する可能性があります。たとえば、入力パラメータまたは出力パラメータとして `Path` タイプを使用するネストされたワークフロー要素があるとしたします。これらの入力または出力パラメータを、`Path` タイプを使用する他のパラメータまたは変数にバインドしようとするとう失敗します。このタイプは廃止されており、使用できないためです。現在は同様の `path` タイプの変数を、`Path` タイプの入力、出力、または変数にバインドできるようになりました。 `Array/path` および `Array/Path` バインドにも同様です。このようなシナリオでは、元の入力または出力タイプは変更されません。たとえば、`Path` タイプの入力パラメータが `path` タイプの変数にバインドされている場合、入力パラメータは引き続き `Path` タイプを使用します。

- **Properties タイプの入力パラメータのデフォルト値としてアクションを選択できない**

`Array/Properties` を返すアクションは、`Properties` タイプの入力パラメータのデフォルト値として選択できません。

- **1つのオブジェクトのみが選択またはバージョン管理されているにもかかわらず、割り当てられた Git リポジトリに複数のワークフローまたはアクションがプッシュされる**

この問題は、Git リポジトリを以前の変更セットにリセットし、ローカルの変更を保持することを選択した後に発生します。プッシュ操作でどのオブジェクトが選択されているかに関係なく、ローカルの変更は一緒に Git リポジトリに入ります。

既知の問題

既知の問題には、次のトピックが含まれます。

- [インストール/移行/アップグレードの問題](#)
- [Web クライアントの問題](#)
- [その他の問題](#)
- [以前の既知の問題](#)

インストール/移行/アップグレードの問題

- **vRealize Orchestrator 7.5 を vRealize Orchestrator 8.x に移行した後、[Git 履歴] ページでカスタムコンテンツが利用できない。**

vRealize Orchestrator 7.5 を vRealize Orchestrator 8.x に移行した後、Git 統合を構成するときに、[Git 履歴] ページでカスタム コンテンツが利用できません。

回避策： 移行されたすべてのコンテンツを Git のローカルの変更として表示するには、リポジトリに最初にプッシュする前にカスタム コンテンツを手動で編集して保存し、それを 8.x 互換の形式に変換します。その後、移行されたすべてのコンテンツを Git リポジトリにプッシュできます。

- **vRealize Orchestrator または vRealize Automation 8.x にアップグレードすると、vRealize Orchestrator クライアントの一部のリソース要素が変更されたり、以前のバージョンに戻されたりすることがある**

この問題は、以前に vRealize Orchestrator クライアントで別のソース ファイルを使用して更新されたリソース要素が発生します。vRealize Orchestrator または vRealize Automation の展開をアップグレードした後、これらのリソース要素は旧バージョンによって置き換えられることがあります。これは断続的に発生する問題です。

回避策：

- 1.vRealize Orchestrator クライアントにログインします。
- 2.[資産] > [リソース] の順に移動します。
- 3.問題の影響を受けるリソース要素を選択します。
- 4.[バージョン履歴] タブを選択し、要素を適切なバージョンにリストアします。
- 5.影響を受けるすべてのリソース要素に対してこの手順を繰り返します。

Web クライアントの問題

- **基本認証を使用して HTTP プロキシで HTTPS エンドポイントを追加しようとすると、「REST ホストの追加」ワークフローが失敗する**
これは、このタイプの通信プロトコルに関連するセキュリティ上の脆弱性（HTTP を介してプレーン テキストの秘密データを誤って公開する可能性）が原因の意図された動作です。

回避策：回避策はありません。このユースケースは対応していません。

- **戻り値タイプの問題のため、入力フォームの外部ソースとしてアクションを選択できない**
vRealize Orchestrator クライアントの [入力フォーム] タブで、デフォルト値または値オプションに対して Any または Array/Any のいずれかの戻り値タイプを持つアクションを選択できません。

回避策：

- 1.vRealize Orchestrator クライアントにログインします。
- 2.ワークフローを選択し、[入力フォーム] タブに移動します。
- 3.ウィジェットのデフォルト値または値オプションから期待される戻り値タイプを使用してアクションを設定し、変更を保存します。
- 4.デフォルト値または値オプションのアクションを選択してワークフローを保存し、アクションを以前のバージョンに戻すか、戻り値のタイプを Any タイプに戻します。

- **ワークフローを複製して削除しても、ローカルの変更を使用できない**
ワークフローを複製してから削除します。[Git 履歴] ページには、削除されたワークフローのローカル変更はありません。

回避策はありません。

- **ユーザーがアクセス権のないコンテンツに対する Git の変更を破棄できる**
ワークフロー デザイナ権限を持つユーザーは、アクセス権のないコンテンツに対する Git の変更を [Git 履歴] ページから破棄できます。

回避策はありません。

- **保護された Git ブランチへのコミットのプッシュが失敗する**
構成された Git ブランチが保護されている場合、プッシュ操作は常に失敗しますが、プッシュは成功したというメッセージが表示されます。

回避策はありません。

- **vRealize Orchestrator クライアントで、名前に下線文字が含まれるタグが使用されている**
vRealize Orchestrator クライアントでは、3 文字未満のタグ名または空白文字が含まれる名前はサポートされていません。短い名前のオブジェクトから自動的に生成されるすべてのタグには、アンダースコア文字を使用したサフィックスが付きます。また、空白文字はすべてアンダースコアに置換されます。たとえば、Orchestrator レガシー クライアントの /Library/project_A/app/DR/backup に配置されているワークフローでは、移行されると、vRealize Orchestrator クライアントに次の自動生成されたタグが含まれます。「Library」、「project_A」、「app」、「DR_」。

回避策：vRealize Orchestrator クライアントで新しいコンテンツを作成するときに、タグ付け規則に従います。

- **カタログ アイテムのポピュレーションを目的として 5,000 を超えるアクションが実行されると、vRealize Orchestrator コンテナが再起動する**
この問題は、それぞれ 20 個を超える vRealize Orchestrator アクションを実行する 250 個のカタログ アイテムが並行して実行される環境でテストされました。これにより、使用可能なすべての Tomcat スレッドが枯渇し、健全性チェックのプロープが失敗することにより、vRealize Orchestrator コンテナが再起動します。

回避策はありません。

- **外部 vRealize Orchestrator 環境の vRealize Automation に組み込まれた vRealize Orchestrator クライアントからアクションを実行すると、「ID: のアクションの実行は見つかりませんでした (Action execution with id: was not found)」の結果が返される**
この問題は、組み込みの vRealize Orchestrator クライアントからアクションをトリガするときに、外部 vRealize Orchestrator クラスタでアクションを実行またはデバッグする場合に発生します。外部 vRealize Orchestrator クラスタは、vRealize Automation の統合として追加する必要があります。

回避策：外部 vRealize Orchestrator クライアントを使用して、アクションを開始またはデバッグします。

- **スクリプト可能タスクにバインドされた変数の色分けに一貫性がない**
ワークフローのスクリプト可能タスクのコードに含まれるバインドされた変数の最初の一致のみが色分けされます。

回避策はありません。

- **申請されたカタログ アイテムが完了し、「ワークフローの開始がクライアント エラーで失敗しました。考えられる理由は必須パラメータが見つからないか無効です。(Start workflow failed with client error! Possible reason is missing or invalid required parameter!)」というエラーが表示される。**
vRealize Orchestrator ワークフローを呼び出す申請された vRealize Automation カタログ アイテムが失敗する可能性があります。この問題は、SecureString フィールドがある Composite 入力パラメータ タイプのワークフローで発生する可能性があります。

回避策はありません。

- **プロパティ入力パラメータ タイプとウィジェットの複数値ピッカーを使用するワークフローで、プロパティ タイプを返すデフォルト値アクションを使用すると、ウィジェットが正しく入力されない。**
複数値ピッカー ウィジェットのデフォルト値として Properties タイプを返すアクションを使用すると、値列に空のキーが表示されます。

回避策：Array/Properties タイプを返すアクションを使用します。

- **Orchestrator レガシー クライアントで作成されたワークフローが重複すると、値オプションに外部アクションではなく定数が表示されることがある。**
Orchestrator レガシー クライアントで設計され、vRealize Orchestrator クライアントで複製されたワークフローの入力パラメータを編集するときに、値オプションが外部アクションではなく定数として設定されることがあります。

回避策：[入力フォーム] タブに移動し、必要な外部アクションを含めるように入力パラメータのプレゼンテーションを編集します。

その他の問題

- **マルチノード プラグインで [SSH コマンドの実行] ワークフローを実行すると、ワークフローが失敗する**
マルチノード プラグインを使用してリモート vRealize Orchestrator インスタンスを接続し、リモート リポジトリから同期されている SSH コマンドの実行 ワークフローを実行すると、ワークフローが失敗します。

回避策：ワークフローが正常に実行されるようにするには、生成されたワークフローのローカル変数の名前を **[SSH コマンドの実行]** の最終スクリプト要素の名前に変更します。次のスクリプトは修正の例です。

```
var r = remoteToken.getOutputParameters();
result = r.get("result");
errorText = r.get("errorText");
outputText = r.get("outputText");
```

- **vmo_tokenreplay テーブルによって vRealize Orchestrator のデータベース サイズが非常に大きくなっている**

vmo_tokenreplay テーブルのサイズが非常に大きくなっています。

回避策：コントロール センターに **root** としてログインします。**拡張機能のプロパティ** で、トークン再生の拡張機能を選択し、**すべてのワークフローの実行について記録再生** プロパティを無効にします。

- **新しい vRealize Orchestrator バージョンで作成されたパッケージを以前のバージョンにインポートすると、エラーが発生することがある**

vRealize Orchestrator バージョン間の互換性の問題が原因で、新しい製品バージョンで作成されたパッケージを以前のバージョンの vRealize Orchestrator 展開にインポートできません。

回避策はありません。

- **TLS 1.0 または 1.1 サービスに接続しようとする、エラー メッセージが表示される**

vRealize Orchestrator では現在 TLS 1.2 プロトコルを使用しています。古いバージョンの TLS 1.0 または 1.1 プロトコルを使用する外部サービスへの送信接続が次のエラー メッセージで失敗する場合があります。**内部エラー:サーバが選択したプロトコル バージョン TLS10/TLS11 がクライアント環境設定 [TLS12] で受け入れられません (InternalError: The server selected protocol version TLS10/TLS11 is not accepted by client preferences [TLS12])**。

回避策：[ナレッジベースの記事 KB84201](#) を参照してください。

- **vRealize Orchestrator コントロール センターのパスワードは、サービスの再展開後に初期値にリセットされる**

vRealize Orchestrator Appliance を展開したら、`vracli vro update-cc-password` コマンドを実行して、コントロール センターのパスワードを変更できます。ただし、`/opt/scripts/deploy.sh` スクリプトを実行して vRealize Orchestrator サービスを再展開すると、コントロール センターのパスワードが初期値にリセットされます。

回避策はありません。

以前の既知の問題